

アトピー性皮膚炎の治療考察

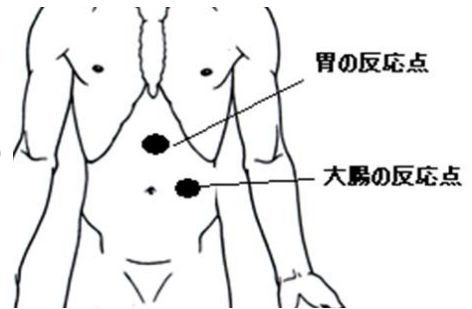
東洋鍼灸院 田中俊男

はじめに：アトピー性皮膚炎に対して決定的な治療法はあまり確立していないように思う。ステロイドのリバウンドや薬の連続投与による副作用など、完治までなかなかいかない。The Bi-Digital O-Ring Testを使って当院でのアトピー性皮膚炎の見方を披露したい。

check

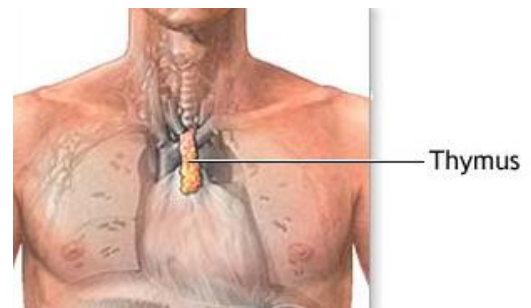
1.免疫の問題

- 1.大腸の状態(天枢)
- 2.乳酸菌の選択
- 3.粘膜の問題(鼻炎、アデノイド、咽頭炎)
- 4.歯科の問題(詰め物、顎関節、噛み合わせ、歯周病菌)
- 5.食べ物(血液データとBDORTによる食品check)



2.着る物と生活環境

- 1.寝室の電磁波
- 2.ブラジャー(女性)
- 3.黒い肌着
- 4.化繊や絹
- 5.IHや電子レンジ
- 6.職場のパソコン



- 具体的方法：
- 1.皮膚炎患部のBDORT
 - 2.胸腺のBDORT
 - 3.大腸のBDORT
 - 4.Telomere測定
 - 5.鼻や喉の臓器代表領域の測定
 - 6.歯科の問題の判定と特定(マグネットを使う)
 - 7.乳酸菌の種類と適量、組み合わせ
 - 8.適量を持たせたときのTelomere測定
 - 9.BDORT(+)のもので胸腺の(-2)を確認
 - 10.適量薬剤で胸腺を-2にしておきながら、食品の写真で不適合食品の割り出し

指標

指標	正常値	解説
胸腺	-2	+6に近づくと免疫力低下が疑われる。(-2)を目標に治療方針を決定する。
telomere	120ng↑	Telomereは元気指数。理想的は500ng以上。
stress	0	ストレスのない人は0。-6が一番悪い。額と腕で測れる。

